

●ウイルス性胃腸炎

■ノロウイルス：

毎年秋ごろから春先までノロウイルスによる胃腸炎が流行します。同時にインフルエンザも流行します。インフルエンザには予防ワクチンがありますが、ノロウイルスにはありません（現在開発中です）。

ノロウイルスは1968年アメリカオハイオ州ノーウォークの小学校で起きた集団胃腸炎の患者から初めて発見されました。これをノーウォーク様ウイルス(Norwalk-like virus)と呼ばれていましたが、2002年国際ウイルス分類委員会で「ノロウイルス Norovirus」という名前が決まりました。

■感染経路：

ノロウイルスは激しい嘔吐と下痢を引き起こします。この感染者の便や吐物に含まれるウイルスが手や食品についたり、乾燥して空気中に舞い上がって口から体内に侵入することで感染します。また感染者から大量に排出されたウイルスが下水から海へ流れてカキなどの二枚貝に取り込まれ、それを加熱せずに生で食べても感染します。

■症状と経過：

ノロウイルスは非常に感染力が強く、ウイルスが体内に入り、腸内で増殖すると1～2日で腹痛、嘔吐、下痢などの症状が出ます。症状は激しいのですが、数日で治まります。下痢が治まっても1週間ほどウイルスを出し続けるので要注意です。小さな子どもや年配の方は脱水に注意しなければなりません。

■便の検査：

感度の高い遺伝子検査と感度は低いものの簡便な抗原検査があります。抗原検査は3才未満と65才以上の方は保険適用になりますが、感度が低く判定結果に疑問が残ります。遺伝子検査は行政機関、研究機関、民間の検査専門会社等で行うもので、一般の医療機関では行いません。

インフルエンザは検査をして陽性の場合は治療薬がありますが、ノロウイルスには治療薬はありません。そのためノロウイルスを疑っても一般には検査はしません。

■治療：

ノロウイルスにはいわゆる特効薬はありません。ノロウイルスによる胃腸炎に罹ったら脱水にならないように水分摂取をしながら、身体からウイルスが出て行くのを待つしかありません。普段からOS-1のような経口補水液を常備しておくことが重要です。

■予防：

ノロウイルスに対して治療薬がないということは罹らないように予防するしかありません。また家庭内での感染を広げないように注意が必要です。

予防の基本はよく手を洗うということです。特にトイレの後や調理・食事の前には流水で十分に手を洗いましょう。便や吐物を処理する時は自分が感染しないように使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用することが重要です。

■消毒液の作り方と使い方：

濃度(希釈倍率)	希釈方法
0.02%(200ppm)	2リットルのペットボトル1本の水に10ml (原液をペットボトルのキャップ2杯)
0.1%(1000ppm)	500mlのペットボトル1本の水に10ml (原液をペットボトルのキャップ2杯)

- ①市販の塩素系消毒剤（ハイター、ブリーチ：5%「50000ppm」）を上図のように希釈して使います。
- ②塩素系消毒剤には次亜塩素酸ナトリウムが含まれていますので金属のさび・腐蝕の原因になります。金属部分に使用した場合は10分程度してから水拭きしてください。また塩素ガスが発生することがありますので換気には十分注意してください。
- ③便・吐物が付着した場所の拭き取りは0.1%溶液
- ④汚染された衣類のつけおき消毒には0.1%溶液
- ⑤手すり・蛇口・ドアノブなどの拭き取り消毒は0.02%溶液